

【令和7年度】エシカファーム ガイドライン評価改善シート

事業所名： NIHOアルテ

作成日：令和7年 8月 6日

本部	代表	施設長
田中	風間	山本

前年度 施設目標	前年度の改善への取り組み	・一日の支援で気づいた点や記録に残すべき内容を話し合う支援報告会を毎日開催し、スタッフに定着させ、支援体制の見直しや保護者、関係機関との情報共有につなげる。 ・支援内容から個別支援計画に至るまでの過程を論拠あるものにしてゆく。 ・利用者の低年齢化に伴い、再構造化をすすめ、特性や活動に適した環境を考慮し作ってゆく。
	前年度の施設目標 (支援方針)	再構造化の継続的な取り組み。 利用者の活動の、ご家族への見える化(HUGを利用した、活動記録の共有)

項目	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上での共通点	保護者評価、事業所内評価を踏まえた上で相違点	事業所の強み	事業所の改善点
環境・体制整備	十分とは言いきれないかもしれないが、個々の特性に応じた支援や配慮したエリアの提供はできている。	スペースや職員配置、生活空間や活動等より充実した過ごし方ができるよう、より工夫していきたい。	・LINEWORKSやHUGを活用した情報提供と情報開示システムがある ・法人として研修体制が充実、受難に学ぶ体制や姿勢が備わっている ・外部コンサルテーションの活用による専門的な支援の提供 ・迎えの際など、日常的に保護者をリアルタイムで顔をあわせて意見交換できる機会がある。	・事業所内の状況が保護者に開示できていないなど封鎖的な状況にある ・保護者会等やペアレントトレーニング等が数年間にわたり開催されていない状況がある ・ひとりひとりがより過ごしやすく、より個々に合わせた支援が実施できる環境の整理を図る ・特性に合わせた個別支援、特に自立と一般化の視点を強化。 ・情報の開示を意識的に行っていく。
業務改善				
適切な支援の提供	活動プログラムの固定化及び地域の他の子供との活動機会への取り組みが弱い。	より特性に合わせた分析と支援計画と実践の実現に向けて検討できる点がある。		
関係機関や保護者との連携				
保護者への説明責任等	ペアレントトレーニング等や保護者会等の取り組みがされていない。	情報の伝達という点では、必要な情報の収集と提供に取り組む必要がある。		
非常災害等への対応	避難訓練状況や体制の周知がどこまでできているのかあいまいな部分がある。	事業所内での取り組みにおいても随時周知していく必要がある。	評価を行っての事業所としての感想など	
支援プログラム	新たな遊びや学習の機会の提供や活動スペースの確保など。	個別化と自立の視点を中心に様々な場面で活かせるようなスキルの習得と体験の場を増やしたい。	・訓練や保護者会の開催、ペアレントトレーニング等に関することなど、情報提供や機会の提供が足りない印象を受けた。 ・具体的に支援についての要望は多くはない印象だが、環境の整備、個別化、自立と一般化など、さらに取り組める点は多いため保護者とも相談しながら支援に取り組んでいきたい。	

今年度 施設目標	改善への取り組み	・保護者会の開催及び情報の開示の改善。 ・活動エリアや内容の再検討と実践。 ・支援計画に関するプロセス、職員間での勉強会・ミーティング等の体制整備。
	施設目標 (支援方針)	ひとりひとりが活動しやすく、より個別化した支援が提供できる環境を整え、個別化をベースに自立と般化を重視した支援を展開する。